

二年国語教室通信

大江健三郎さんと考える「学校に行く意味」

学校が休みになって、「なぜ学校に行くのか」の意味を考えてみた人はいいますか。

今日はこの答えをノーベル賞作家（ノーベル文学賞を受賞した作家はもう一人います。川端康成氏です。）の大江健三郎氏と一緒に考えてみましょう。教科書の「吟味された言葉」という文章で初めて大江健三郎さんの文章に触れたという人がほとんどだと思います。その大江健三郎氏が、さまざまな疑問に思い出も交えながら答えたエッセイ集があります。その本の最初の疑問が「なぜ子どもは学校に行かなくてはならないのか」なのです。

この疑問に大江さんは優しく答えていきます。大江さんがこの疑問を初めて抱いたのは十歳の夏、日本が戦争に負けたときです。周囲の変化の中で、大江少年は学校に行くことに疑問を覚え、学校の近くの森で植物図鑑を手に一人過ごすようになりました。秋になり、その森の中で遭難した大江少年は助けられたものの、熱が下がらず、お医者様にも見放されてしまいます。その時に、お母さんとこんなやりとりをします。

私は自分にもおかしく感じるほど、ゆっくりした小さな声を出してたずねました。

「お母さん、僕は死ぬのだろうか。」

「私は、あなたが死なないと思います。死なないようにねがっています。」

「お医者さんが、この子は死ぬだろう、もうどうすることもできない、といわれた。それが聞こえていた。僕は死ぬのだろうと思う。」

母はしばらく黙っていました。それからこういったのです。

「もしあなたが死んでも、私がもう一度、産んであげるから、大丈夫。」

「……けれども、その子供は、今死んでゆく僕とは違う子供でしょう？」

「いいえ、同じですよ、と母は言いました。」

「私から生まれて、あなたがいままで見たり聞いたりしたこと、読んだこと、自分でしてきたこと、それを全部新しいあなたに話してあげます。それから、いまのあなたが知っている言葉を、新しいあなたも話すことになるのだから、ふたりの子供はすっかり同じですよ。」

私はなんだかよくわからないと思ってはいました。それでも本当に静かな心になって眠ることができました。そして翌朝から回復していったのです。とてもゆっくりとでしたが、冬の初めには、自分から進んで学校に行くことにもなりました。

この後、大江少年は、ぼんやりと考えるようになります。いまここにいる僕はお母さんにもう一度産んでもらった新

しい子供じゃないだろうか、教室にいる子供たちも、大人になることができないで死んだ子供たちの、見聞きしたことで読んだこと、自分でしたことを話してもらって、その子供の代わりに生きているのではないだろうか、その証拠に、僕たちはみんな同じ言葉を受け継いで話している、と。

そして、このように答えを見つけるのです。

そして、僕らはみんな、その言葉をすっかり自分のものにするために、学校へ来ているのじゃないか？国語だけじゃなく、理科も算数も、体操ですらも、死んだ子供らの言葉を受け継ぐために必要なのだと思う！ひとりで森の中に入り、植物図鑑と目の前の樹木を照らし合わせているだけでは、死んだ子供の代わりに、その子供と同じ、新しい子供になることはできない。だから、僕らは、このように学校に来て、みんなと一緒に勉強したり遊んだりしているのだ……。

(『自分の木』の下で「朝日新聞社」)

不思議なエピソードであり、不思議な答えです。でも、私の大好きな答えです。皆さんはどう思いましたか。

最後に大江さんの言葉を紹介します。

たとえば、問題がすっかり解決しなかったとしても、じっと考える時間を持ったということは、後で思い出すたびに意味があったことがわかります。

頭の体操

次の空欄に漢字を一つ入れて、上から真ん中、真ん中から下、左から真ん中、真ん中から右と四つの熟語を作ります。

側 流 音

①意□出 ②適□格 ③日□気

屋 試 手

行 相 弟

④散□合 ⑤拍□柄 ⑥利□守

競 投 障

難読漢字

③④⑩は超難問！

*ヒント「と」「ひ」で始まる動詞

①滞る ②懐く ③擲つ ④宥める ⑤額ずく

⑥宣う ⑦諮る ⑧辱める ⑨阻む ⑩犇めく

頭の体操 漢字クイズ 答え

- ① 外（意外・外出・屋外・外側）
- ② 合（適合・合格・試合・合流）
- ③ 本（日本・本気・手本・本音）
- ④ 歩（散歩・歩合^{ぶあい}・競歩・歩行）
- ⑤ 手（拍手・手柄・投手・手相）
- ⑥ 子（利子・子守・障子・子弟）

難読漢字

- ① とどこおる ② なつく ③ なげうつ ④ なだめる
- ⑤ ぬかずく ⑥ のたまう ⑦ はかる ⑧ はずかしめる
- ⑨ はばむ ⑩ ひしめく